

平成23年度鹿児島大学医学部医学科

第2年次後期学士編入学試験

学力試験 Ⅱ

平成23年6月18日 午前11時40分～午後1時10分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題を開いてはいけません。
2. この問題は全部で8ページあります。
落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があれば、手をあげて監督者に知らせてください。
3. 受験番号は、必ず4枚の解答用紙のそれぞれに記入しなさい。
4. 4枚の解答用紙が渡されますが、第1問解答用紙（その1，その2）には第1問について、第2問解答用紙（その1，その2）には第2問について解答しなさい。
5. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。記入箇所を誤った解答については、その解答に限り無効とします。
6. 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。

第1問。 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

※著作権の関係で、本文は省略します。

(出典: Roxanne Palmer. Fecal matters. Nature Medicine 17, 150-152, February 2011 から抜粋、一部改変)

単語ノート

diarrhea, 下痢	antibiotic, 抗生物質
<i>Clostridium difficile</i> , クロストリジウム・ディフィシル, 偽膜性大腸炎を発症させる感染菌	epiphany, 突然のひらめき
gastroenterology, 消化器病学	supplant, ～にとって代わる
fecal, 糞便の	pathogenic, 病原性の
probiotic, 体によいバクテリア	feces, 糞便
palatable, 口に合う	stopgap, 一時しのぎの
gross out, 気分を悪くさせる	inflammatory, 炎症性の
ulcerative colitis, 潰瘍性大腸炎	microbiota, 微生物叢
in the wake of, ～の結果	espouse, ～と結婚する
squeamishness, 吐き気を催すこと	

問題 1. Lawrence Brandt は、どのような方法で彼の患者の疾患 (recurring diarrhea) を治療したのか。100字以内の日本語で記述しなさい。

問題 2. Brandt の治療法に対しては現在賛否両論がある。賛成論、反対論の論旨を本文に即してそれぞれ120字以内の日本語で記述しなさい。

問題 3. Brandtの治療法は他の疾患にも応用されつつあるが、その具体例を本文に即して150字以内の日本語で記述しなさい。

第2問 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

※著作権の関係で、本文は省略します。

(出典：Lauren Schenkman, “Second Thoughts About CT Imaging”, Science, 331, 1002-1004, 2011)

単語ノート

biophysicist：生（物）物理学者

pediatric：小児科の

pediatrician：小児科医

radiologist：放射線学者

computed tomography：コンピュータ X 線断層写真撮影

appendicitis：虫垂炎

ultrasound：超音波を用いた診断

vulnerable：傷つきやすい

cancerous：がんに罹った

radiological：放射線（医）学の

imbroglio：ごたごた

roil：いらだたせる

skeptic：懐疑論者

pre-malignant：前がん性の

ire：怒り

roentgenology：X 線学

extrapolate：推定する

epicenter：爆心地

cadre：一員

millisieverts：ミリシーベルト（電離放射線の線量当量の国際基本単位）

epidemiologist：疫学者

leery：疑っている

問題 1. 下線部①の意味するところを、本文に即して日本語で150字以内にまとめなさい。

問題 2. 下線部②について、Brenner が根拠とした事実を本文に即して日本語で200字以内にまとめなさい。

問題 3. 下線部③は具体的にどのような意見があるか、本文に即して日本語で250字以内にまとめなさい。